



外壁の塗装

- 外回りの塗装は美観だけでなく、建物の保護という観点からも大切です。
- 10年に1度を目途に外壁の塗装を考えましょう。

塗膜の劣化は建物の耐久性にも影響する

建物は外壁や屋根で守られ、外壁や屋根はさらに塗料の塗膜で守られています。しかし、それらは常に雨や紫外線にさらされ、知らない間に劣化が進行していきます。

定期的にメンテナンスを行わないと、美観が損なわれるだけでなく建物の耐久性も損なってしまうので注意が必要です。たとえば外壁の塗膜の劣化を放っておくと、ボロボロと剥がれてきたり、外壁の割れから雨がしみ込むようになります。そうしたら見苦しいばかりでなく、建物内部にも影響を与えてしまいます。外壁の内側で、雨水の影響で木材の腐食が始まったり、カビが生えたり…。

⇒外壁の劣化が、建物そのものの劣化につながるから 怖いのです。

外壁塗装の耐久性は、一般に10年ぐらいといわれています。でもこれは よい塗料を使って、下記のような正しい方法で塗られている場合です。そうでないと もっと短期間で塗膜がダメになることも多いのです。

●正しい外壁塗装のプロセス

1.高圧洗浄	塗装する面の汚れをすっかり落とす。そうしないと塗料が剥がれやすい。
2.下地補修	ひび割れや防水箇所の傷みをきちんと補修してから塗装をする。
3.下塗り	傷み具合や下地の種類によって選定した下塗り材を使う。
4.上塗り	上塗りは2回。塗装の種類によっては1回でよいものもある。この塗膜が建物を守る。

まずは劣化状態を自己チェックしましょう

劣化の始まりは、塗膜をこすると手に白い粉がつくのでわかります。これは、白化やチョーキングなどといわれていますが、紫外線や水の影響で塗料に含まれている樹脂が劣化して粉状になっているのです。

また、ひび割れも劣化の危険信号のひとつ。放っておくと、雨水がしみこんだり、外壁がはがれてきたりします。

また、コケや藻が生えていないかも要チェックです。

こうした外壁の劣化は、遠目には わかりにくいものです。必ず定期的に、じっくりチェックするようにしましょう。

正しく塗らないと長持ちしない

●下地調整…塗膜を長持ちさせるためには、まず塗る前の下地調整が肝心です。

高圧洗浄をおこなって、外壁面の汚れをよく落とします。これをやらないと塗料が きちんと付着しません。

また、モルタルなどの ひび割れ、傷み、サイディングのシーリング材(防水用の詰め物)を きちんと補修します。

塗りなおしは、外壁の傷み具合をチェックして補修する よい機会でもあるのです。

●工期は 7～10日間程度です。

●塗る前には、建物をシートで囲んで、塗料がまわりに飛散ないようにします。塗らないところに塗料が付着しないように ビニールをかぶせて養生することも大切です。

●また、工事が始まる前に、後々のトラブルとならないように、ご近所へのあいさつも必ずやっておきましょう。

塗料のグレード

●塗料は色や意匠をつけるための顔料と、顔料を壁に定着させ「膜」として つなぎとめるための樹脂から構成されています。塗膜が どれだけもつかは、樹脂の種類で変わります。

●用いる塗料の種類によって工事費がかわるのは当然ですが、工事費の大半を占めるのは 人件費ですから、よい塗料を使っても工事費が倍になるようなことはありません。耐用年数の違いを考えると、結局は多少高くても よい塗料を使ったほうがトクといえるでしょう。